

縄文時代後期を中心とした集落跡の全貌が明らかになりました。

主な遺構：竪穴建物跡、貯蔵穴、土器棺墓など

主な遺物：土偶、岩版、石棒、縄文土器など

ささだいらいせき
笠平遺跡地元説明会 2 資料
平成 27 年 11 月 21 日（土）午前 11 時～

調査機関 公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター

調査支援 株式会社 **二友組**

〒465-0094 名古屋市名東区龜の井 3-177
電話 052-709-7700

〒498-0017 弥富市前ヶ須町野方 802-24
電話 0567-67-4163（調査課）
HP <http://www.maibun.com/top/>
Facebook <https://www.facebook.com>
Twitter <https://twitter.com>

笛平遺跡遺構位置図

N
↑



大型石棒出土状況



1434SK (石囲炉:縄文時代後期か)



3294SK (土器埋納のある炉跡:縄文時代後期か)



790SI炉 (石囲炉の中に土器の埋納)



945SK (土器埋設遺構:縄文時代後期初頭)



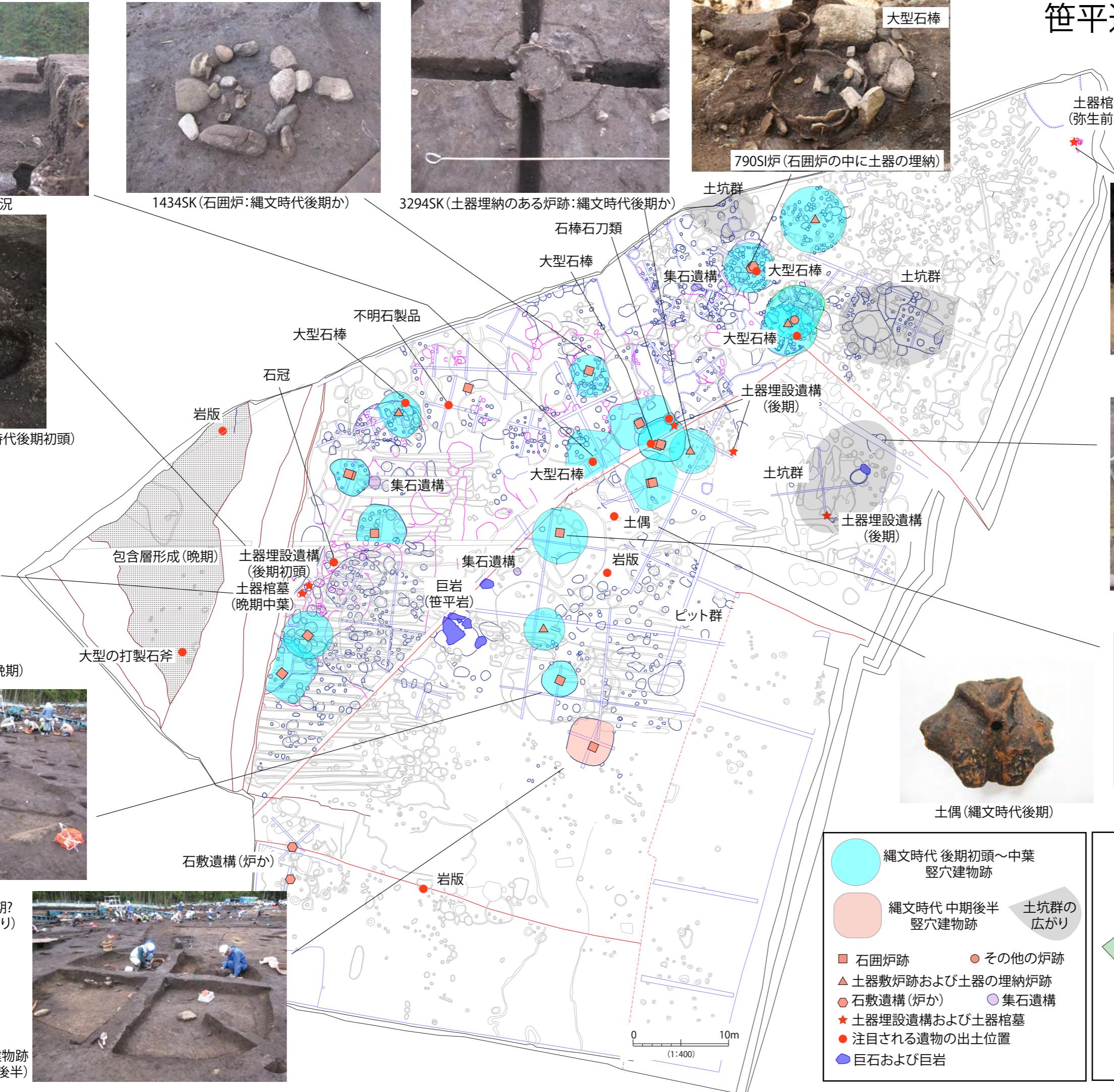
943SK (土器棺墓:縄文時代晚期)



3947SK (豊穴建物跡:
縄文時代後期?
中期の可能性もあり)



3893SK (豊穴建物跡:
縄文時代中期後半)



681SK (土器棺墓:弥生時代前期)



3639SK (貯蔵穴:縄文時代後期か)



土偶 (縄文時代後期)



3628SK (石囲炉跡:縄文時代後期か)

笛平遺跡の調査成果

ささだいら

笛平遺跡の調査は、設楽ダム建設事業に伴うもので、遺跡全域の 6,930 m²を対象に、今年 6 月から行っています。

さかいがわ

だんきゅう

遺跡は境川の東側（左岸）、川に対して西に張り出す段丘上に立地しています。段丘は、川側が標高 385m 前後と低いのに対し、中央が標高 387m 前後と一段高くなっています。川側の低い段丘上を A 区、高い段丘上を B 区・C 区と、大きく三調査区に分けて調査を行っています。

どせきりゅうたいせき

じょうもんじたい

ばんき

ほうがんそう

いこう

れきぐん

A 区：厚さ 1m の土石流堆積の下で、縄文時代晚期の包含層および遺構を確認しています。包含層上面にある礫群は円弧を描くように見え、一部は置かれた可能性もあります。

B 区・C 区：これまでに以下の遺構を確認しています。

ちゅうきこうはん

たてあなたてものあと

縄文時代中期後半・・・竪穴建物跡 1 棟

こうきしょとう

ちゅうよう

ちよぞうけつ

後期初頭～中葉・・・竪穴建物跡 18 棟以上、貯蔵穴などの土坑 5 基以上、

どき まいせつ いこう

土器埋設遺構 4 基（炉の中に埋納されたものを除く）、その他土坑および柱穴多数

いしじきいこう

どきかんぼ

晩期前葉～中葉・・・石敷遺構（炉の可能性もあり）1 基、土器棺墓 1 基

どきかんぼ

弥生時代前期・・・土器棺墓 1 基

こうきしょとう

ちゅうよう

遺構は、縄文時代後期初頭から中葉（今から 4,400 年～4,000 年前頃）のものが多く確認されました。遺跡の中心

には自然の巨岩が存在しており、その巨岩を挟んだ東西、および北側から、竪穴建物跡群と土坑群が集中して見つか

いしがこいろあと

まいのう

っています。竪穴建物跡のなかでは、石圓炉跡や、土器の埋納された炉跡などが見つかっています。竪穴建物跡は、

繰り返し同じ場所が利用されたようで、上下に 2～3 段重なった状態の炉跡がいくつか認められます。一方、土坑群

ちよぞうけつ

ふくろじょう

の中には、貯蔵穴と考えられる断面の形が袋状になるものもあります。また、巨岩の東側では、柱穴が多く見つかる

場所もあります。

どき

じょうもんじたい

そうき

ちゅうき

こうき

ばんき

やよいじだい

ぜんき

どせいひん

出土した土器には、縄文時代早期・中期・後期・晩期、そして弥生時代前期のものがあります。特に後期初頭から

ふかばち あさばち ちゅうこうどき

晩期前半（今から 4,400 年～3,000 年前頃）の遺物が多く、深鉢・浅鉢・注口土器があります。土製品は頭や手足を

どぐう

せきぞく いしきり

だせいせきふ

じんき

れつき

まいせきせふ

うちかきせきすい

欠いた土偶が出土しました。石器には、石鏃・石錐・スクレイパー・打製石斧・刃器・礫器・磨製石斧・打欠石錐・

きりめせきすい ゆうこうせきすい すりいしたたきいしるい いしづらだいしるい せきせいひん せきぼうせきとうり せっかん がんぐうがんぱん

切目石錐・有溝石錐・磨石敲石類・石皿台石類が出土しています。また、石製品には、石棒石刀類・石冠・岩偶岩版

るい どっこいし せんこくれき がんぐうがんぱんるい せきせいひん せきぼうせきとうり せっかん がんぐうがんぱん

類・独鉛石があり、なかでも線刻礫を含む岩偶岩版類は今回の調査で 5 点確認されています。奥三河郷土館に所蔵さ

れている 2 点を合わせると計 7 点となり、1 遺跡での岩偶岩版類の出土量は県内で最多です。

今回、笛平遺跡（集落）のすべてを調査したことにより、地形にあわせる形で展開した縄文時代の集落のあり方を解明する良好な資料を得ることができました。今後は、整理作業を通じて詳細な検討を行ない、活動の様子をより明らかにする予定です。